

福岡県立小倉聴覚特別支援学校

自己評価		学校運営計画(4月)		評価(総合)	
学校運営方針	1 一人一人の人権が尊重されるとともに、命と健康を守るため危機管理に強い学校をめざす。 2 確かな学力の育成のために系統性を意識したカリキュラム・マネジメントを行うと共に、専門性を生かして、幼児児童生徒一人一人の障がいの状態に応じた指導・支援を行い、コミュニケーション能力を育成する。 3 保護者、地域社会をはじめ、医療・福祉・保健等の関係諸機関との連携を行い、地域の聴覚障がい教育のセンター的役割を担うとともに、聴覚障がい教育の理解と啓発を図る。	年度重点目標	具体的目標		
<p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を徹底した中で教育活動が行われ、各種行事では一定の制限を設けつつも実施することができ、幼児児童生徒が明るく元気に活動することができた。 ・電子黒板の活用、学習成果物の掲示など、様々なICT棟を活用した視覚情報が保障され、学習効果を高める工夫がなされた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染状況に応じた、学習活動や行事等の実施方法の適宜検討 ・職員の危機管理能力のより一層の向上 ・地域の聴覚障がい教育のセンター的機能の一層の充実 ・学校教育活動の情報発信のさらなる工夫と理解啓発の向上 	<p>【主体的・対話的で深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基礎学力の定着・向上 <input type="checkbox"/> ICTを活用した授業づくり <input type="checkbox"/> 学習形態の工夫 <p>【自立と社会参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語力・コミュニケーション力の向上(手話・話す聞く力) <input type="checkbox"/> 障がいに対する認識の深化 <input type="checkbox"/> 体験活動や表現活動の充実 <input type="checkbox"/> キャリア教育の充実 <p>【組織力・教育力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 人材育成、専門性の維持・継承 <input type="checkbox"/> 学校研究の推進 <input type="checkbox"/> 働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の明確化と内容の精選を図るなど、一時間の授業の質を高める「小倉スタンダード」の確立及び実施に努める。 ・読み書きの力と意欲の向上を高めるための「日記、作文、読書」活動の充実を努める。 ・ICT機器やソフト等の整備を図るとともに、日常的な活用を推進する。 ・ICT活用向上のための職員研修を推進する。 ・グループ編成やITでの指導を工夫し、個別最適な指導の充実を目指す。 ・各種検定の実施や話し合い活動の充実により、手話や、話す力聞く力等の言語力・コミュニケーション力の向上を目指す。 ・自立活動の充実を図るとともに、個の障がいの状態に応じた合理的配慮の適切な提供を行う。 ・委員会活動や生徒会活動の充実を図り、体験活動や表現活動の充実を目指す。 ・コロナ禍において制限されてきた種々の学校行事について、内容や方法等、感染対策を講じながら再開する。 ・発達段階に応じた、キャリアパスポートの作成及び活用を努める。 ・多様な進路や制度に関する、積極的な情報提供を行う。 ・校内マイスター制度を充足させ、マイスターを活用し、教師の授業力の向上を図る。 ・事務分掌等において、O/Aによる業務執行を行う。 ・教職員のニーズに応じた、校内職員研修の充実を図ると共に、校外の各種研修会や研究協議会等への積極的な参加・派遣を促す。 ・研究授業を充実させ、教員の授業づくり(学びの蓄積)を図る。 ・週1日の時制変更による業務時間の確保について、具体的な検討を進める。 ・ICT活用等による業務の効率化を進めるとともに、タイムマネジメントの意識の向上を図る。 			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
各学部	幼稚部	伝え合うことを楽しみ、自信をもって生活する幼児の育成を目指し、障がいの状態や特性、発達段階に応じたコミュニケーション手段を用い、話す聞く力や自ら学び考える力、人と関わる力を育む。	幼児の発達段階や聞こえ等の様子に応じて年間指導計画や個別の指導計画を作成し、日々の活動を計画的に行う。 幼児一人一人の実態や課題を共有し、活動のねらい達成に向けた手段や内容を検討し、環境構成を工夫する。		
	小学部	基礎学力の定着を図り、基本的な生活習慣や社会性を身に付けさせるとともに、豊かな心身を育成する。	個に応じた指導に取り組み、ICT機器等の活用の工夫、日記や作文指導、話し合い活動、読書活動等を継続的に実施する。 授業、特別活動、業間活動、行事等において、児童が主体的に活動できる場を設定し、様々な体験の機会を設ける。 実態や学習の状況等に関する教師間の情報交換・共有を密に行い、よりよい指導・支援の在り方について検討する。		
	中学部	学力向上を目指し、適切な実態把握に基づく個に応じた指導・支援の研鑽・充実を努める。家庭、地域との連携に努め、諸行事や体験活動を通して、生徒の主体的に生きる力を育む。	生徒一人一人が役割を果たす場面を設定し、達成感や成就感を味わうことができるようにする。		
学務部	教務	一人一人の障がいの状態や特性、発達段階に応じた指導により、学力の向上を図るとともに、幼稚部小学部中学部の一貫した学部体制により教育活動の活性化を図る。	指導力の向上を目指し、幼児児童生徒の実態等をもとに指導計画を作成し、定期的な点検や反省を行う。 統合型校務支援システムでの書類作成や教科書の採択等の確認会や資料配布を行い、適切で効率的な教務事務を行う。		
	情報	校内ネットワークや情報機器等の管理・整備を行い、情報発信と教員のICTを活用した実践的指導力の向上に努める。	ネットワークの管理・整備に努め、機器等の取扱いや授業での活用方法等の研修や情報提供を行う。 ICT支援員と連携して、各職員にICT活用のフォローを行い、校内全体の実践的指導力を向上させる。		
	庶務	保護者や職員、同窓会等との連携を図り、本校教育活動の円滑化に努めるとともに、学校行事等の広報活動を行い、本校教育活動の理解啓発を図る。	保護者との連携を図りながら、役員会・理事会の開催及びPTA活動の実施に努める。 PTA日より、KDSタイムズに加え、HPや掲示板等を使って、本校の教育活動を定期的に発信していく。		
キャリア教育	進路指導	幼児児童生徒一人一人に応じた進路指導を通して自らの進路を主体的に切り拓く力を育み、希望進路の実現を図る。	進路希望調査に基づく情報提供や「進路だより」による進学先の紹介、保護者向け進路研修会・学校見学会等を実施する。 キャリアパスポートを充実させる。また、児童生徒向け進路学習会、中学部職場見学・職場体験や進路説明会を実施する。		
	研修	学校研究や各種研修を設定することで聴覚特別支援学校教員としての専門性の維持・継承と向上を目指す。また、各種研修会等の情報提供を行い、職員の積極的な参加を促す。	学校研究を効果的に進め、職員間の協議が活発になるように研修形態やグループ編成の工夫を行う。 研修参加への関心が高まるように、各種研修、書籍、資料の紹介の際には、注目点等の要点を書き添える。		
	聴覚障がい教育	聴覚障がい教育に関する専門性の維持向上及び自立活動の充実を目指す。	自立活動担当者会や実態連絡会を通して、幼児児童生徒に関する情報交換や共通理解を図る。 職員や関係機関を対象に、自立活動に関する取組の紹介・共有、研修や学習会の企画・実施を行う。		
生徒指導部	地域支援	地域の聴覚障がい児(者)及び関係機関のニーズに応じた支援を行うとともに、各関係機関との連携を深め、聴覚障がい教育のセンター的機能の充実を目指す。	教育相談(来校相談、巡回相談等)では来談者の主訴に応じ、支援の具体について情報提供や指導助言等を行う。 地域の学校や関係機関等の職員を対象として、支援連絡会や聴覚障がい教育セミナーを実施する。		
	生徒指導	幼児児童生徒の安全に関する情報を発信し、職員間で適宜連携を図りながら、障がいの状態や家庭状況等を踏まえ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。	学校生活アンケート、家庭用チェックリスト等を定期的に実施し、関係者との情報共有に努め、諸問題に組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針の周知徹底を図り、研修やいじめ防止対策委員会を実施する		
	学校安全	安全管理、危機管理に留意し、組織として安全な教育環境の整備に努める。	避難経路を見直すとともに、新たな避難経路を作成して校舎内に掲示し、緊急時に対応できるようにする。 危機管理マニュアルの見直し・改善を定期的に行い、教職員で共通理解を図る。		
人権・同和教育推進	生徒指導	幼児児童生徒の心身の健康の保持増進を図るとともに、保健指導の充実を努める。	定期健康診断や健康観察、健康相談、スクールカウンセリング、緊急時対応シミュレーション等を関係者と連携して行う。 食事に関するアンケートを実施し、実態に応じた食に関する指導を行ったり、保健研修会の実施や養護教諭と連携することを通じて性に関する指導を行ったりする。		
	事務	人権・同和教育研修を充実させ、教職員自身が人権尊重の理念をもち、幼児児童生徒が個々の実態に応じた人権感覚を身に付けられるように指導の体制を整える。	資料や研修図書等を紹介したり各種研修会の情報提供を行ったりし、職員の共通理解や積極的な研修への参加を促す。 全教員が人権教育に関する授業計画にもとづいて、授業実践を行う。		
事務	幼児児童生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、各学部・分掌と連携しながら必要な措置を講じる。	各学部・分掌と連携を密にすることで、教育環境に必要な物品を把握するとともに、現有物品等で代替可能か検討後、必要順位を確認し、予算執行計画を立てる。			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は A:適切である B:概ね適切である C:やや不適切である D:不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
評価項目以外のものに関する意見	

